

🍂 落ち葉の堆肥の作り方 🍂

【準備するもの】

- ・落ち葉（広葉樹）
- ・囲い … ベニア板、木のわく（通気性のよいもの、空気の抜け道が必要）
- ・米ぬか又は油かす … 3m×3m×70cmの囲いに対して 30ℓ×1袋分（※発酵促進のために使います。使わなくてもよいですが、発酵に時間がかかります。）
- ・ビニルシート … フルーシートで可、落ち葉の上にかぶせます。

【作業内容】

1 囲いの中に落ち葉を入れ、水をまき、人が乗って踏み固める。

（※水の量は踏むとしみ出てくる程度で多すぎても少なすぎてもいけない）

2 落ち葉 15cm～20cmの厚さごとに、米ぬか又は油かすをまき、その上にさらに落ち葉を乗せる。これを繰り返しサンドウィッチのように重ねていく。

3 ビニルシートをかけ、発酵させる。

（※水を追いかけてしない、雨ざらしにしない。）

4 1ヶ月～1ヶ月半後に、切り返し（攪拌：かくはん）を行う。

（※ムラなく発酵させるために均等に混ぜる。乾いていたら水をかける。）

5 4を半年間繰り返す。

☆半年で堆肥として使えるようになります。

イチョウヤカキの葉などは分解に時間がかかるので、堆肥にはあまり適しません。

マツなど針葉樹の葉や、笹竹の葉も不向きです。

広葉樹の中でも、つばき、珊瑚樹、泰山木など肉厚で艶のある葉っぱは堆肥化しにくいです。

ベランダでの堆肥の作り方♪

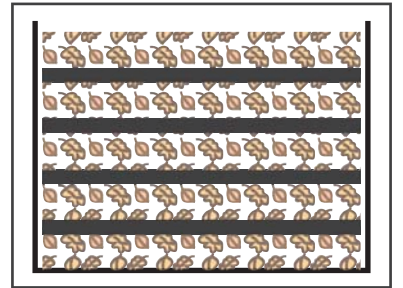
厚手の丈夫なビニール袋に、水抜き用の穴と空気穴を数箇所開けて直射日光が当たらない場所に置き、一ヶ月経ったら新しい袋に入れ替えます。

落ち葉がカサカサの状態よりもいくらか湿っていた方がよいので、雨上がりに作業するか、かき集めた落ち葉に水をかけて少し湿らせると良いでしょう。

※管理の仕方によっては、小バエなどのムシや、においが発生したりしますのでご注意ください。※長時間作業することによって皮膚が荒れたり、低温やけどになったりするおそれがありますので、皮膚の弱い方やアレルギーをお持ちの方は、取扱いに十分ご注意ください。



1 囲いの中に落ち葉を入れる



2 米ぬか又は油かすを薄くばらまく



3 ビニルシートをかけて発酵させる



4 切り返し（攪拌：かくはん）を行う



財団法人 京都市体育協会

